



2020年2月25日

各位

会社名：株式会社省電舎ホールディングス
代表者名：代表取締役社長 橋口 忠夫
(コード番号：1711 東証第二部)
問い合わせ先：取締役管理本部長 大浦 隆文
(Tel:03-6821-0004)

(再訂正)「平成30年3月期第3四半期決算短信[日本基準]連結」の一部訂正について

記

当社は、2018年2月14日に開示いたしました「平成30年3月期第3四半期決算短信[日本基準]連結」について、2018年8月10日付で一部内容の訂正を行っておりますが、一部再訂正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、本日発表「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出並びに過年度決算短信の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は__を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以上

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社省電舎ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 1711 URL http://www.shodensya.com
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) 西島 修
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名) 田中 圭 (TEL) 03-6821-0004
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	701	△60.6	△230	—	△235	—	△150	—
29年3月期第3四半期	1,784	△0.3	19	—	24	—	15	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 △250百万円(—%) 29年3月期第3四半期 21百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△55.41	—
29年3月期第3四半期	7.68	7.52

(注) 平成30年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	2,210	626	22.5
29年3月期	2,049	852	34.0

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 497百万円 29年3月期 696百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,955	65.5	98	—	92	—	52	—	9.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	2,752,173株	29年3月期	2,702,173株
② 期末自己株式数	1株	29年3月期	1株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2,707,990株	29年3月期3Q	1,957,375株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
(継続企業の前提に関する重要事象等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、北朝鮮問題等の地政学的なリスクは存在するものの企業収益の回復や雇用環境改善を背景に緩やかな回復基調が継続しております。

このような状況の中、当社グループは引き続き再生可能エネルギー事業及び省エネルギー事業を主たる事業として積極的に事業を推進いたしました。当第3四半期連結累計期間における損益の状況については、当社グループの売上・利益計上が第4四半期に偏重する傾向があり、営業損失計上の結果となっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高 701 百万円(前年同期比 1,082 百万円減、60.6%減)、営業損失 230 百万円(前年同期 営業利益 19 百万円)、経常損失 235 百万円(前年同期 経常利益 24 百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失 150 百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益 15 百万円)となりました。なお、太陽光発電設備権利売買に際し発生した受取和解金 8 百万円を特別利益として計上しております。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間より報告セグメントごとの業績をより適切に評価するために、販売費及び一般管理費の配賦基準等を見直し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しております。このため、以下の前年同期との比較については、前年同期の数値を変更後の算定方法により作成した数値と比較しております。

(省エネルギー関連事業)

省エネルギー関連事業におきましては、前期に比べ売上高は大幅に伸長したものの、当第3四半期連結累計期間においては、売上高 367 百万円(前年同期比 182 百万円増、98.7%増)、セグメント損失は 89 百万円(前年同期 セグメント損失 88 百万円)となり、営業損失の結果となっております。

(再生可能エネルギー事業)

再生可能エネルギー事業におきましては、太陽光発電設備の設置工事及び設備販売を中心に営業推進して参りましたが、設備の系統連系が予定より遅れ、第4四半期にずれ込んでいる案件もあり、売上高 333 百万円(前年同期比 1,265 百万円減、79.1%減)、セグメント損失は 130 百万円(前年同期 セグメント利益 105 百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末より 160 百万円増加し、2,210 百万円となりました。これは主に未成事業支出金の増加 481 百万円、投資有価証券の減少 128 百万円、受取手形及び売掛金の減少 63 百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は前連結会計年度末より 386 百万円増加し、1,584 百万円となりました。これは主に前受金の増加 601 百万円、短期借入金の減少 100 百万円、未払金の減少 49 百万円等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は前連結会計年度末より 225 百万円減少し、626 百万円となりました。これは主に投資有価証券の売却に伴うその他有価証券評価差額金の減少 73 百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失 150 百万円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、営業損失計上の状況でございますが、概ね計画通りに推移しており、「平成 29 年 3 月期決算短信」(平成 29 年 5 月 15 日)において発表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	297,050	216,457
受取手形及び売掛金	157,109	93,775
仕掛品	1,036	1,295
原材料	40,745	27,803
未成事業支出金	586,506	1,068,105
その他	116,747	109,835
貸倒引当金	△19,021	△17,871
流動資産合計	1,180,175	1,499,401
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	403,068	391,698
その他	61,983	54,580
有形固定資産合計	465,052	446,278
無形固定資産		
のれん	113,369	94,817
その他	80	80
無形固定資産合計	113,449	94,897
投資その他の資産		
投資有価証券	226,333	98,251
破産更生債権等	150,762	150,762
長期貸付金	10,000	10,000
その他	108,952	115,884
貸倒引当金	△204,792	△204,792
投資その他の資産合計	291,255	170,106
固定資産合計	869,756	711,283
資産合計	2,049,931	2,210,685
負債の部		
流動負債		
買掛金	43,286	21,300
短期借入金	306,710	205,940
1年内返済予定の長期借入金	37,512	43,440
未払金	125,288	75,609
前受金	219,494	820,857
リース債務	6,582	6,582
未払法人税等	7,317	10,553
メンテナンス費用引当金	286	71
工事損失引当金	14,000	14,000
その他	13,265	15,858
流動負債合計	773,744	1,214,214
固定負債		
長期借入金	267,196	259,276
リース債務	53,001	47,560
繰延税金負債	103,896	63,459
固定負債合計	424,093	370,295
負債合計	1,197,838	1,584,510

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	997,449	1,009,884
資本剰余金	1,095,428	1,107,863
利益剰余金	△1,482,948	△1,632,999
自己株式	△1	△1
株主資本合計	609,927	484,747
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	86,687	13,135
その他の包括利益累計額合計	86,687	13,135
新株予約権	140	70
非支配株主持分	155,337	128,221
純資産合計	852,092	626,174
負債純資産合計	2,049,931	2,210,685

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,784,586	701,852
売上原価	1,422,239	561,753
売上総利益	362,346	140,098
販売費及び一般管理費	343,104	370,262
営業利益又は営業損失(△)	19,242	△230,164
営業外収益		
受取利息	100	169
受取配当金	12	20
契約解除収入	7,014	—
その他	2,563	348
営業外収益合計	9,691	538
営業外費用		
支払利息	3,602	5,367
その他	489	973
営業外費用合計	4,092	6,340
経常利益又は経常損失(△)	24,841	△235,966
特別利益		
固定資産売却益	—	2,128
投資有価証券売却益	—	62,739
受取和解金	—	8,500
特別利益合計	—	73,367
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	24,841	△162,598
法人税、住民税及び事業税	5,394	22,175
法人税等調整額	△1,690	△7,607
法人税等合計	3,703	14,567
四半期純利益又は四半期純損失(△)	21,137	△177,166
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	6,095	△27,115
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	15,042	△150,050

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	21,137	△177,166
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	612	△73,552
その他の包括利益合計	612	△73,552
四半期包括利益	21,749	△250,718
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,654	△223,603
非支配株主に係る四半期包括利益	6,095	△27,115

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において重要な営業損失 36,030 千円、及び経常損失 31,525 千円 及び当期純利益 70,075 千円を計上したものの、営業活動によるキャッシュ・フローについては△495,677 千円と大幅なマイナスとなっております。

当第3四半期連結累計期間の業績においても、営業損失 230,164 千円、経常損失 235,966 千円、親会社株主に帰属する四半期純損失 150,050 千円を計上しており、当該状況により継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは、上記の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況を解消するために、以下の対応策を講じ、当該状況の解消又は改善に努めてまいります。

①営業利益及びキャッシュ・フローの確保

前連結会計年度に引き続き、各案件の精査を行い、継続的に原価の低減を図り、利益率の向上を進めてまいります。また、バイオマス燃料事業(PKS事業)を早期に立ち上げ、安定的な売上・利益を確保する体制の構築を進めてまいります。

②案件精査、利益率確保のための体制

案件の精査、見積の正確性を高めるため、営業担当、技術部門、工事管理部門参加のプロジェクト会議を立ち上げております。本プロジェクト会議は、月に1回の定例会議と大型案件が発生した場合の臨時会議を行い、案件ごとの想定原価審査、工程の確認等により利益率確保に努めてまいります。

③諸経費の削減

随時、販管費の見直しを実施し、販管費の削減を推進し、利益確保に努めてまいります。

④資金調達

財務体質改善のために、将来的な増資の可能性も考慮しつつ、借入金を含めた資金調達の協議を進めております。

しかしながら、これらの対応策を講じても、業績及び資金面での改善を図る上で重要な要素となる売上高及び営業利益の確保は外部要因に大きく依存することになるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当社グループの四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金が12,435千円、資本準備金が12,435千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間末において、資本金が1,009,884千円、資本剰余金が1,107,863千円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	省エネルギー 関連事業	再生可能 エネルギー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	185,179	1,599,407	1,784,586	—	1,784,586
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	58	58	△58	—
計	185,179	1,599,465	1,784,644	△58	1,784,586
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△11,429	27,831	16,402	2,840	19,242

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額2,840千円には、セグメント間取引消去6,962千円及びのれん償却額△4,122千円が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	省エネルギー 関連事業	再生可能 エネルギー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	367,945	333,906	701,852	—	701,852
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	367,945	333,906	701,852	—	701,852
セグメント損失(△)	△89,076	△130,516	△219,592	△10,571	△230,164

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△10,571千円には、セグメント間取引消去7,979千円及びのれん償却額△18,551千円が含まれております。

2. セグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に評価するために販売費及び一般管理費の配賦基準等を見直し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しております。

当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成しており、前連結会計年度の第3四半期連結累計期間に開示したセグメント情報の利益または損失の算定方法との間に相違がみられます。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において重要な営業損失 36,030 千円、及び経常損失 31,525 千円及び当期純利益 70,075 千円を計上したものの、営業活動によるキャッシュ・フローについては△495,677 千円 と大幅なマイナスとなっております。

当第3四半期連結累計期間の業績においても、営業損失 230,164 千円、経常損失 235,966 千円、親会社株主に帰属する四半期純損失 150,050 千円を計上しており、当該状況により継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、当該事象または状況を早期に改善、解消すべく対応策に取り組んでおりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。なお、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況及びその対応策に関しましては、2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）に記載しております。